

妙安寺だより 314

テレフォン法話 092-751-6

084 (毎週月曜日に話が変わります)

法華経の解説 (5)

[方便品第二 ②]

成仏してよりの因縁・種種のもって 広くをべの方便をもって 衆生を引導してのを離れしむはん 如来は方便・にせり 舍利弗 如来の知見はなり 無量・力・あつて 深くに入り 一切の法を成就せり 舍利弗 如来はく種種にしにを説きにして 衆の心をせしむ

舍利弗よ。私は仏になって、さまざまな実例やいろいろなえ話をひいて、広く教えを述べてきました。また、数えきれないほど、多くのをいて、すべての人々を仏の道に導き入れ、もろもろののから離れさせてきました。

なら、仏は、いろいろな手だてを用いて悟りに導き、智慧をさずけて悟りにらしめる道とを、皆すでにことごとく備えているからです。

舍利弗よ。仏の智慧は、で深く、はるかに長くはかり知れないものであります。

それは、楽しみを与えて苦しみを取り除き、喜びをもたらして迷いをぬぐいさり、どんなりもられない力を持ち、なるものにも恐れることのないものです。

仏は、身も心も動ずることのないな心に入り、煩惱からきたれた完全で平安なみに、限りなく深い、いまだかつてない教えをすべてり、仏の道をしげているのです。

舍利弗よ。仏は、くさまざまの考えをめぐらして、みに、もろもろの教えを説き、また、しい言葉で人々を導き、人々の心にびを与えているのです。

平成23年度 地涌の声の功德主 募集

毎月、妙安寺だよりと共に同封しております「地涌の声」の功德主を募集しております。希望の月をお知らせください。(同じ月が重なった場合は、申し込み順によります) 功德主料は、ひと月 5,000円です。(4月申し込み済)

宗祖御報恩 お 法 要

10月24日(日曜日) 正午より お 齋(おとき)

午後1時より 宗祖御報恩 お会式法要

午後2時より 法 話

講 師 大分県中津市 秋月寺 原田貴法上人

◎お会式の意義

日蓮聖人の身は、お釈迦さまのに帰りましたが、を救おう、この世を清らかに安らかにしよう、という日蓮聖人の命とは、永遠に死ぬことなく、ずっと生き続けているのです。

その日蓮聖人のにれ、生き続ける日蓮聖人に再び会って、日蓮聖人を信じて、苦しみをなくし、その教えに導かれて、幸せに生きてゆこうと誓う日が、とも呼ばれ、江戸時代から広く庶民の間で、行なわれてきた仏教行事が「御会式」です。

◎御会式とは、

日蓮聖人のご命日に営む、日蓮聖人の(法要)のことで、日蓮聖人が、された10月13日を中心に、全国の日蓮宗寺院でまれます。

各宗派にそれぞれ祖師がいるにもかかわらず、「大師といえば弘法、祖師といえば日蓮」などと呼ばれ、「祖師日蓮」は人々に「おさま」と呼ばれて、と尊敬をあつめてきました。

人々は、をかつぎ、をり、お題目を唱え、うちわ太鼓を叩いて、やかに祖師・日蓮聖人のをたたえ、日蓮聖人のがかかるように願いました。

「一貫三百どうでもいい」とながら、うちわ太鼓を打ち鳴らし、万灯行列をくり出して、お会式をむ姿は、一日のである一貫三百文を投げ打っても、日蓮聖人にしようという、庶民のやをしています。

時の幕府の悪をめ、現実の暮らしの中で、苦しみ悩む自分たちのような庶民を助け、仏の道に導いてくれた日蓮聖人の素晴らしさをめたたえ、自分たちの悩みごとや願いごとが必ず「お祖師さま」によって、えられると信じて、人々はお会式を営んだのです。

御命講や 油のやうな 酒五升（松尾芭蕉）